



Socio express

エクスプレス

社会科教育法

資料活用の技能に関する課題と小中連携による支援／新田将之

②

授業実践レポート

ヨーロッパの第一次産業のいま／飯塚和幸

⑧

「乙巳の変」をどのように中学校歴史にとり入れるか／小沼健司

⑩

批判的思考力を身に付ける授業づくりの視点／内藤圭太

⑭

教育出版

資料活用の技能に関する課題と小中連携による支援 ～中学校社会科教員の視点から～

新田 将之

●につた まさゆき／横須賀市立長井中学校教諭

● 1. はじめに

学習指導要領では、「習得すべき知識、概念の明確化を図るとともに、(中略)地図や統計など各種の資料から必要な情報を集めて読み取ること、社会的事象の意味、意義を解釈すること、事象の特色や事象間の関連を説明すること、自分の考えを論述することを一層重視する」(2. 社会科改訂の趣旨 i. 改善の基本方針)ため、いずれの分野においても、様々な資料を適切に選択、収集、活用するなどして社会的事象を多面的・多角的に考察し、公正に判断するとともに適切に表現する能力や態度を育てることが目標として掲げられている。現行学習指導要領の実施以降、思考力、判断力、表現力を育むことがクローズアップされているが、改訂の経緯や指導要領の内容をみると、前提として資料を適切に選択、収集、活用する力が必要であることがわかる。

すなわち社会科の学習においては、思考、判断、表現するためには、その根拠となる統計資料などを適切に選択、収集、活用していくことが学習上の重要なプロセスであると言える。

しかし、4月に中学校に入学した生徒の中には、グラフや図表を読み取ることが苦手としている生徒が多く存在していることに気づく。彼らは、思考の前提となるデー

タの読み取りや作成の段階でつまづいてしまうため、考えるための「拠り所」を持つことができず、「さあ考えよう!」とクラスが動き出している中で、自分だけが何を「拠り所」にどのように考えればよいのかがわからない状況に陥ってしまうのである。本稿では、そのような生徒の姿と筆者の取り組みについて紹介したい。

● 2. 資料活用が苦手な生徒の姿①

ー「単純だと思われることが実は苦手」

彼らを見て気づくことは、地図や様々な形式のグラフ、図表などの資料を読み取る基本的な力が身につけていないことである。例えば、小学校5年生で繰り返し扱われる雨温図について見てみる。筆者の感覚では、雨温図は、単純でわかりやすい資料だと感じていた。しかし、雨温図が「月ごとの平均気温を折れ線グラフで、降水量の変化を棒グラフで、それぞれ縦軸(平均気温・降水量)と横軸(月)により表しているグラフ」であることが理解できていない生徒が少なからずいることがある。このような生徒は、月ごとの降水量や平均気温の単純な変化を読み取ることができないので、その地域を自然の面から考察しようにも自分なりの根拠を持つことが困難になってしまう。社会科の系統で見ると、グラフの読み取りは小学校6年生の段階でほぼ身につ

いているはずだが、実態として身につけていない生徒がいるということである。それでは、地域の小中学校の社会科で連携してそれらの力を身につけさせればよいかというと、そう簡単ではないように思われる。特に、グラフを読み取るための基礎的な力は、社会科だけで育成できるものではないと考える。こうした課題に直面した時、私は算数の教科書を開いてみる。そこには、資料を選択、収集、活用するための基礎的な学習がびっしりと詰まっているからだ。言い換えれば、種々の統計資料を活用していく力の基礎は、小学校の算数の中で育まれるのではないかと感じるのである。先の雨温図であれば、小学生は、小学校2年生の段階で、「身の回りにある数量を分類整理し、簡単な表やグラフを用いて表したり読み取ったりする」から始まり、6年生の「伴って変わる二つの数量の関係を考察することができるようにする。／ア 比例の関係について理解すること。また、式、表、グラフを用いてその特徴を調べること。」(小学校学習指導要領解説(算数) 2 内容 D 数量関係-(2))まで、非常に緻密で丁寧に系統立てられたプログラムの中で学んできている。したがって、雨温図の例で言えば、グラフの読み取りや作成を苦手とする生徒のそれぞれが、おおよそ、算数のどの段階でつまづいているのかを知る必要が出てくる。これはあくまで、筆者の感覚であるが、様々な値が変化していく様子を表す「折れ線グラフ」のあたりでグラフに苦手意識を持つ生徒が始めているのではないかと感じる。「折れ線グラフ」は、3年生で棒の長さで数の多さを表

す「棒グラフ」を学んだあと、4年生で学んでいる。また、雨温図は、縦軸で降水量と気温の二つの要素を扱っていることも読み取りをさらに難しくしているかもしれない。

私たち教師は、グラフの上がり・下がりから変化を読み取ること自体にそれほど難しさを感じないかもしれない。しかし、私たちは、「これぐらいのことがわからないの?」と言いたくなるのをぐっところえて、その生徒がグラフの何についてわからないのかを知るために、まず算数の教科書を開き、そしてグラフの基本的な事項を指導していく必要がある。

● 3. 資料活用が苦手な生徒の姿②

ー「多くの生徒が苦手とする百分率(%)」

さて、雨温図の読み取り以上につまずきを感じるのが、様々な資料に多用される百分率(%)ではないだろうか。5年生の社会科の教科書を開くと、雨温図とともに、百分率を用いた円グラフ、折れ線グラフ、棒グラフがいたる所に登場する。すでに、5年生の段階で、「食料自給率」や「〇〇の都道府県別の生産量の割合」などのグラフを読み取っていることになっている。しかし、生徒の多くが百分率から具体的な数値を算出したり、具体的な数値から百分率を算出したりすることを苦手としている。グラフを見て、おおよその値が体感できればよいといった考えや、計算機があれば問題なくできるといった考えもあるが、これからの多様な社会を生き抜く生徒には、百分率・割合の考えを理解し活用する力も社会的事象を読み解く力として必要ではないだろうか。

【資料 1】

1 次の表は、A町とB町の人口と人口構成の割合を表しています。

A町とB町の人口と人口構成 平成〇〇年

年 齢	A町	B町
0歳～14歳	18%	13%
15歳～64歳	64%	62%
65歳以上	18%	25%
人 口	65200人	25200人

問1 65歳以上の人口が多いのはどちらの町ですか。

多い町を○で囲みなさい。

(A町 ・ B町)

問2 A町の0歳～14歳の人口を答えなさい。

答えが小数になる場合は、小数第一位を四捨五入して概数で表しなさい。

人

2 次の表は、C町とD町の年齢別の人口を表しています。

問1 C町の65歳以上の人口の割合を百分率で答えなさい。

答えが小数になる場合は、小数第一位を四捨五入して概数で表しなさい。

%

C町とD町の年齢別の人口 平成〇〇年

年 齢	C町	D町
0歳～14歳	13500人	4580人
15歳～64歳	48100人	21800人
65歳以上	13500人	8800人
人 口	75100人	35180人

私の担当しているクラスでも百分率の計算が苦手な生徒が多いので、上のような小テストを2年生で実施してみた【資料1】。その結果、基礎的な学力における課題が感じられた。突然の小テストのため動揺もあったようだが、「資料を活用して社会的事象を考察」しようにも、資料そのものを読み取るための基礎的な力が不足しているのである。例えば、特に問1の場合、百分率の値と人口が同じであると勘違いしているケースがみられた。つ

まり、割合の考え方自体を理解できていないようであった。

学習指導要領(算数)では、5年生の学習で百分率が扱われ、目標(4)には「数量の関係を考察するとともに、百分率や円グラフなどを用いて資料の特徴を調べることができるようにする」とあり、「百分率についての理解、目的に応じた資料の収集と分類整理、円グラフや帯グラフを用いた表現と特徴を調べること」((2)「D数量関係」の内容の概観)が学習内容となっている。しかしながら、先の小テストや具体の活動となると、「先生、どっちでわるんだっけ?」、「パーセント大嫌い!」といった生徒の言葉がそこかしこから聞こえてくるのである。そのような実態と向き合い、筆者は次のように順を追って作業させている。

「数字が大きいとわからないので、次のように考えてみてはどうでしょうか?」

作業1 ここにみかんが八つありました。二つはあなたのみかんです。

あなたのみかんは、みかん全体のどれぐらいの割合か分数で表してください。

※ ほとんどの生徒が $2/8(1/4)$ だと答える。

作業2 $1/4$ をわり算で表して計算してください。

※ 少しまごつくが、ほとんどの生徒は、 $1 \div 4 = 0.25$ であると答える。

作業3 0.25を100倍して、百分率(%)にしてください。

作業4 みかん全体を100とした時の自分の

みかんの割合は25%と表せますね。
A町の65歳以上の人口の割合をこの考え方で表してみましょう。

算数、数学の専門的立場の指導からすれば違和感をもたれるかもしれないが、全体に占める割合を分数で表して考えさせると理解が早いように感じる。ただし、分数自体がわからない、わり算ができない生徒も少なからずいることも事実である。特に、被除数が3位数を超えると途端に計算をあきらめる生徒が増えてくる。

また、百分率について、算数で学ぶ時期と社会科で頻出する時期にずれがあることも、生徒の理解を阻む一因であるように思われる。算数で学ぶ学年と社会科で頻出する学年はいずれも5年生で、一見整合性が取れているように見える。しかし、算数で百分率を学ぶのは5年生の後半以降(教科書の後半)であり、社会科で百分率が登場するのは主に教科書上巻であることに十分留意する必要がある。すなわち、小学校の段階では、実感を伴って百分率を用いた資料にふれていない可能性があるわけである。したがって、中学校社会科としての百分率の学び直しは、ある意味必然であるとも考えられる。

●4. 資料活用が苦手な生徒への支援

「割合」そのものの学習については、算数、数学で扱われるが、ここでは中学校社会科において資料活用が苦手な生徒への支援としての筆者の取り組みを紹介する。

まず一つめは、小学校5年生の算数の教科

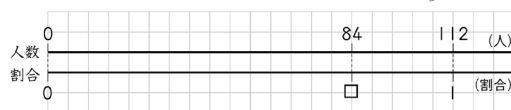
【資料2】

(教育出版『小学算数5』p.154)

●百分率

4

あいさんの学校の5年生の人数は112人です。アンケートでは、そのうち84人が「算数が好き」と答えました。算数が好きな人の割合を求めましょう。



1 比べられる量と
もとにする量を、
それぞれいましょう。

5年生全体の中で、
算数が好きな人の割合を
求めるのだから…。

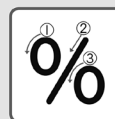


2 割合を求めましょう。

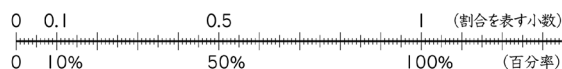
式 = 答え

●百分率

割合を表す0.01を1パーセントといい、
1%と書きます。
パーセントで表した割合を百分率といいます。



割合を表す小数と百分率の関係は、下のようになります。



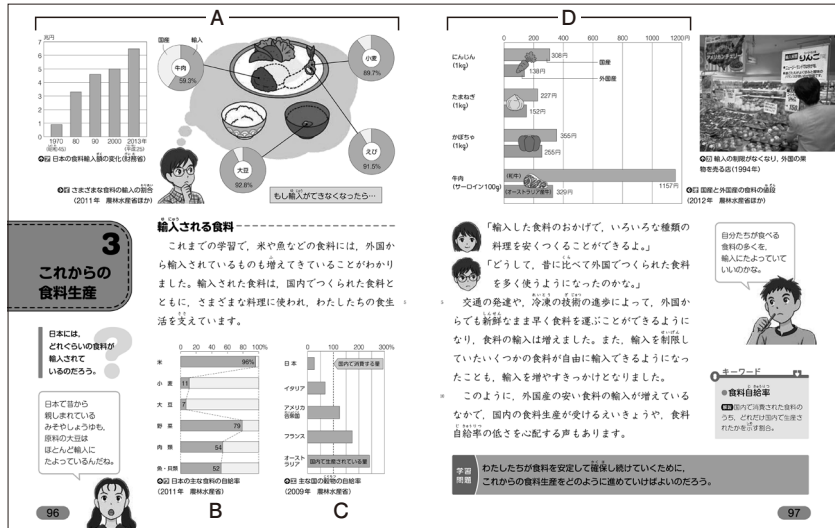
百分率は、もとにする量を100とみた割合の表し方です。
割合を表す1は、百分率で表すと100%です。

書の問題を使って、学び直しをさせる。使われているデータや値が親しみやすいという利点がある。教科書をもとにして問題をつくることはそれほど時間はかからない【資料2】。

次に二つめとして、小学校の社会科の教科書をもとにして問題をつくる【資料3】。これも5年生の教科書に資料が多く掲載されていて、作成しやすい。中学校の教科書よりも図版が大きくルビもあり、生徒にとっては親しみやすい。

【資料3】

(教育出版『小学社会5上』p.96－97)



問1 Aの絵とグラフを見て、これらの絵やグラフは何を表そうとしているのか、次の文のあとに続けて書きなさい。

もし輸入ができなくなったら、絵に描かれている食べ物は、

問2 グラフBを見て、食料の自給率が最も低い食料と、最も高い食料をそれぞれ一つずつ書きなさい。

・自給率が最も高い食料

・自給率が最も低い食料

問3 グラフCを見て、穀物の自給率が100%を下回っている国は、国内の穀物の消費をまかなうために、どのようなことをしていると考えられるか。日本、イタリアから1か国、アメリカ合衆国、フランス、オーストラリアから1か国、それぞれの国名を一つずつ使って書きなさい。

問4 グラフDに示されている牛肉(サーロイン100g)について、オーストラリア産の牛肉の価格は、和牛の価格の何%か書きなさい。

%

支援の三つめとして、定期テストや小テスト、レポートにグラフや図表の作成や読み取りに関する問題や課題を取り入れることである【資料4】。テストやレポートの中で具体的

にデータを扱うようにすると、活用の場面でも戸惑いがなくなる。なお、本県では、資料活用の基礎的学力を問うために、社会科の高校入試問題において、割合の計算が必要とな

る問題が出題されるようになった。

四つめとして、小学校段階の算数につまずいている生徒への支援である。筆者の勤務校では、小学校段階の算数と国語につまずきのある生徒に対して、月に2～3回「放課後寺子屋」という時間を設けて支援を行っている。支援者は、学年教師、市教委より配置される放課後サポートティーチャーである。支援を受ける生徒は、入学直後の5月に実施するスクリーニングテスト、授業中の見取り、本人・保護者の申し出を勘案して決定している。ここでは、わり算やかけ算、分数などの算数の基礎を集中的に学習している。

●5. おわりに

中学校の社会科では、グラフの読み取りも、百分率もすでに学んできたことであり、理解していることであるという前提に立って生徒と向き合う。小学校の学習に目を向けている教師ならば、「このことは5年生で習ったよね?」、「これは小学校の6年生でやったでしょう?」と学年を明示して生徒に迫ることもある。しかし、私たち中学校教師が小学校の学習に目を向けて、その内容や系統を理解することは、生徒に「このようなことがわからないの?」と迫るためではない。生徒個々がどのようなねらいのもと、どのようなことを、どのように学んできたのかを理解するためであり、さらには、そうした理解のもと、その子につまずきを発見して支援していくためである。

先に述べた以外にも、算数の学習を通して「単位あたりの数」、「縮尺」、「概数」、「グラ

【資料4】

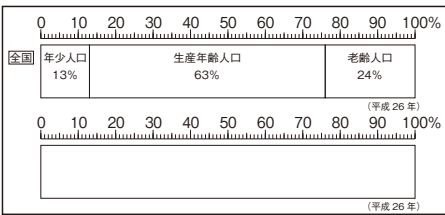
(5) 次の表を見て、自地域の人口構成の帯グラフを[グラフの書き方]にしたがって完成させなさい。また、全国のグラフと比較して、自地域の人口構成の特色を全国という語句を使って書きなさい。

自地域の人口構成 (〇〇市調査 平成26年10月現在)

年齢		男(人)	女(人)	合計(人)	割合(%)
0～14歳	年少人口	521	466	987	
15～64歳	生産年齢人口	2536	2465	5001	57
65歳以上	老年人口	1248	1533	2781	
		4305	4464	8769	

【グラフの書き方】

- 帯グラフには、それぞれの百分率(%)を書きなさい。年少人口などの名前を書く必要はありませんが、**全国の人口構成の項目と同じ並びで**書きなさい。
- 百分率(%)が小数になる場合は、小数第一位を四捨五入して整数にしなさい。
- 定規は使わないので、線はおおよそ直線であればよいものとします。
- 区切った部分がせまい場合は、百分率(%)を帯の外に書いてもかまいません。



フの書き方の基本」など、社会的事象を読み解くための基本的な事項を多岐にわたり、系統立てて丁寧に学んできている。

中学校社会科の教師の立場から、資料を活用するための技能の原点となる小学校社会科、算数を取り上げ、活用例を紹介した。個の実態に応じたきめ細やかな支援を行うためには、小中の同一教科内の系統を理解するとともに、異なる教科間での接続のあり方や相互の学習時期も意識した指導が大切になるのではないだろうか。

ヨーロッパの第一次産業のいま ～北欧における水産業～

飯塚 和幸

●いいづか かすゆき／明治大学附属中野中学・高等学校教諭

●1. ヨーロッパの農業の地域的特徴

ヨーロッパの農業は、畑作と家畜の飼育が組み合わされていることが多い。北緯60度以北では、冷涼な気候と土壤環境により、畑作を行うには不適な地域となっている。

筆者は、ヨーロッパの農業や水産業についての生徒の理解を深めるために、ヨーロッパ各国の農業生産物や水産物の調べ学習を行っている。非常に単純に、どこで、何が生産されているかを調べさせた後、グループごとに発表を行っている。生徒は、教科書に掲載されているヨーロッパの農業分布図や地図帳を頼りに調べるが、水産業に関して着目する者は少ない。一方で、人が居住しているにもかかわらず、北欧では農業が盛んに行われていない(厳密にはできない)ことに気づく生徒は意外に多い。その気づきから、北欧の水産業について着目させ、その特徴を授業で扱っている。今回は北欧の一国、ノルウェーにおける水産業、特にサケ養殖の現状と授業での扱いに関して紹介したい。

●2. ヨーロッパの水産業をどのように扱うか

北欧の水産業を扱う際に生徒に問いかけることは次の点である。

- (1)なぜ北欧では農業を盛んに行わないのか。
- (2)身のまわりで売られている北欧産の魚介類にはどのようなものがあるか。
- (3)北欧で水産業が盛んに行われているのはなぜか。

地理の学習の早い時期に、世界の気候の特徴を学ぶため、自然環境のイメージは比較的にわかりやすい。細かな数値ではなく、どの地域が暑い、寒いといった大まかな印象を復習することから始め、自然環境と生産物の関係を確認する。次に自分が日常的に食べている魚介類の種類とその産地を確認する。サケ、タラ、シシャモなどが代表的な北欧産の魚介類であり、また北欧でも捕鯨が行われていることを説明する。以上をふまえ、水産業が盛んに行われている理由を考えさせていく。そのうえで、我々にとり、身近な魚であるサケの養殖について、以



① ベルゲンの市場で売られているクジラ肉
(2006年 筆者撮影)

国名	漁獲量(t)	養殖量(t)	生産量(t) (漁獲量+養殖量)
ノルウェー	2,838,702	1,019,802	3,858,504
アイスランド	1,081,655	5,050	1,086,705
デンマーク	828,089	38,175	866,264
(フェロー諸島)*	393,875	47,575	441,450
スウェーデン	212,035	10,644	222,679
(グリーンランド)*	209,446	0	209,446
フィンランド	156,095	11,772	167,867

① 北欧各国の漁獲量と養殖量(2010年, FAO資料を参考に作成)

*デンマーク領



① ノルウェー北部におけるサケの養殖の様子
(2013年 筆者撮影)

	漁獲量(t)	養殖量(t)	生産量(t)
1960年	1,200	1,900	3,100
1970年	1,350	480	1,830
1980年	1,904	7,980	9,884
1985年	1,714	34,617	36,331
1990年	900	149,947	150,847
1995年	949	276,499	277,448
2000年	1,226	489,121	490,347
2005年	994	645,818	646,812
2010年	976	994,695	995,671

② ノルウェーにおけるサケの漁獲量・養殖量の推移(FAO資料を参考に作成)

下のような説明を行っている。

●3. ノルウェーにおけるサケ養殖の現状

北欧の人々と海での漁との関わりはかなり古い時代からである。ノルウェー北部の海岸沿いには7000年前から2000年前ごろに描かれたとされる岩絵を見ることができる。岩絵の中には人が船に乗り、網らしきものを投げようとしている様子や、海に向けて矢のようなものを放とうとしている様子がうかがえる。また今からおよそ1300年前からヴァイキングとよばれる海賊集団が活動的になり、遠くは地中海まで活動範囲を広げていたと考えられている。ヴァイキングは交易も行っており、品物として家畜、奴隷、毛皮製品に加え、魚などを扱っていたとされている。交易に用いられた魚は主にタラであったとされ、乾燥させて長期保存ができるようにしていたようである。この乾燥タラは現在でもノルウェーの輸出品となっている。

北欧各国ではフィンランドやスウェーデンでも水産業は行われているが、代表的な産業と言えるほど大規模なものではない。また、デンマークはEU加盟国としては最大の漁業国であるが、漁獲量はノルウェーの4分の1ほどである。現在、ノルウェーは魚介類の輸出額で世界第2位を誇っている。漁業従事者や水産加工業の雇用の約半分は北緯65度以上の3地域(北からFinnmark, Troms, Nordland)に集中している。

サケは個体数の減少などから、漁獲量の制限が設けられ、近年は養殖されたものが流通して

いる。我々が口にする「サーモン」は、かつて日本の漁船が獲っていた「サケ」ではなく、タイセイヨウサケ(アトランティックサーモン)とよばれるものである。天然物のタイセイヨウサケは、その名の通り、北大西洋に生息している。近年はチリやオーストラリアでも養殖が行われているが、より養殖に適している場所がノルウェーであり、ノルウェーでの養殖量は急激に増加している。その背景には、ノルウェー海岸部にある多数のフィヨルドが、養殖に適した波静かな入り江となっているという自然環境の特徴があげられる。ノルウェー語で、湾を意味する「fjord(フィヨール)」、入り江や内湾を表す「vik(ヴィーク)」の付く地名の場所では、養殖いかだを見る機会も多い。

ところで、サケには寄生虫が寄生しやすく、通常は生食することができないため、加熱か冷凍をする必要があった。しかし、他のサケの生息地域より高緯度にあり水温が低いノルウェー周辺で成育したサケには寄生虫が少なく、生食が可能であるという特徴がある。

●4. 今後に向けて

産業の発展を自然環境の特徴と合わせて説明することにより、他地域の産業を学習する際の理解の一助となる。もちろん産業としての定着や発展のためには、自然環境のみならず、複数の要素が絡み合っている。ノルウェーの場合、EUへの加盟問題などとも関連させて学習を発展させることも可能であると考えている。

「乙巳の変」をどのように中学校歴史にとり入れるか

小沼 健司

●こぬま けんじ／桐蔭学園高等学校・中学校教諭

●1. はじめに

今年6月に2022年度以降に高校で導入される新科目の構成案が中教審でまとめられた。注目の日本史必修化は、現行の「世界史A」と「日本史A」を統合させ近現代史に重点を置いた「歴史総合」（仮称）を必修科目とし、「日本史B」は「日本史探究」（仮称）となって従来どおりの選択科目となった。高校での日本史選択者は約35%といわれているが、新科目が起点となって世界史と日本史にどのように選択者が分かれるか興味を持たれる。

日本学術会議の史学委員会による「歴史総合」（仮称）に関する提言には中学歴史分野への言及もあって、「歴史的思考力育成のための基礎的諸技能（スキル）の習得も課題となる」とある。一方で、今後も中学の授業だけで歴史学習を終える生徒は存在する。そうした中学生に、せめて現行の高校教科書に載る歴史事項（用語）も基礎的知識として、授業で取り扱うべきではないだろうか。

●2. 中学1年生の授業の展開

中学1年生の歴史授業において、最初の人類の誕生と旧石器時代、これに続く縄文時代と弥生時代の単元は、多くの視覚資料を提示して立体的な授業を展開することもでき、生徒の興味を喚起できる。次の邪馬台国の卑弥呼では、中国史書から史料の取り扱いに入り、卑弥呼の墓を話題にして古墳時代へ移行していく。史料も金石文に連続し、金印、石碑、鉄剣、古墳、中国・朝鮮の地図など資料を使用した展開が容易

である。そして、ここで外交という大きなテーマに向き合うことになる。

次の単元は、教育出版の教科書の章立てである第2章⑨「聖徳太子の政治と飛鳥文化」と⑩「大化の改新と大宝律令の制定」を一つにまとめて扱う。筆者はここを新たな政治体制の構築を目標とする一つの流れとして捉え、三つの段階に分けて授業を展開していく。第1段階が聖徳太子の「中国や朝鮮にならった新しい政治」、第2段階が中大兄皇子の「唐にならった中央集権の国家」の樹立、そして第3段階が大海人皇子の「政治の改革」であり、その帰結点が大宝律令の完成による律令国家、つまり「全国を統一して支配する中央集権国家」の成立であるとするものである。

この三つの段階を一つの流れとして捉えて考察するのは、歴史の転換の様子を捉える「継続と変化」、因果関係を捉える「原因と結果」、特色を捉える「類似と差異」などの、「歴史の考察を促す概念」（中教審第100回配布資料、2015年8月）を学ぶのに格好の題材となると考えるからである。

●3. 教科書の記述の中から問題点を

いわゆる政治史に入るこの単元では、「なぜ」という問いかけを多用し、教科書の記述を丁寧に読ませて手がかりを探させる。

原因と結果の説明を追って理解していくのではなく、結果としてのできごとから関係者や原因を考察させることによって隠れていた問題点をあぶり出して、あらためて整理しなおすとい

う作業を行っていく。この考察の過程が論理的に展開できるよう、生徒にはしっかりとノートをとらせ、最初の「なぜ」の問いかけに対する解答までをまとめさせて、それができているかどうかを、ノート提出によってその都度、確認をしていく。

●4. 「厩戸皇子」の登場

高校教科書で「聖徳太子」にかわってすでに一般化している「厩戸」の表記については「王」と「皇子」に分かれるが、「天皇」号と「皇子」号の成立を関連づける説をとるとすると、中大兄なども「王」と表記せねばならなくなる。授業では「厩戸」にふれつつも「聖徳太子」を全否定する必要は認められず、ここでも便宜上聖徳太子を用いていきたい。教育出版の教科書p.34では、「蘇我馬子は、姪の推古天皇を女帝として即位させ…天皇の甥にあたる聖徳太子(厩戸皇子)が、摂政として天皇の政治を助け…」とあり、まず馬子と推古との関係、次に推古と太子との関係が共に血縁にあたることで説明されるが、馬子と太子との血縁関係にはふれられていない。

さらに馬子が推古天皇を即位させた前提となる「蘇我氏が、反対派の豪族をおさえて大和政権の実権を握」ったことに太子は関係づけられていない。しかし、添えられた系図には、わざわざ女帝が区別して示されており、そもそも日本のみならず東アジアでも初めての女帝の即位に「なぜ」かを問わずにはいられない。そこで、馬子の飛鳥寺に並べて太子の四天王寺建立が「新しい政治のよりどころ」と関連づけられて記載されていることに注目する。ここで四天王寺の創建説話を紹介して、「新しい政治」を目ざす太子・馬子是对立する物部氏を武力闘争によって排除し、さらに即位させた崇峻天皇をも

暗殺したことによって、推古即位につながることを系図を用いて提示する。

血統と能力の条件は十分に満たしている太子が、即位しなかったことについて、40歳に満たなかったという年齢制限論があるが、それが前例の無い女帝の即位という事象より優先されるのかという疑問と、生涯即位しなかったのはなぜかという疑問は残る。

ここで、太子の即位がなかった事実から導かれるのは、太子と馬子の意志だけでは即位したくてもできなかった、という視点である。物部氏本家を滅亡させ、対立した叔父の崇峻天皇を暗殺したことで太子と馬子は政治の主導権を握ったが、逆に権力の正統性には疑問符が付き、彼らには諸豪族の非難の目が向けられた。これに抗して即位することはできず、太子の叔母である推古を擁立せざるを得なかったのではないか。女帝の誕生は太子・馬子にとっていわば緊急避難的な非常手段であって、だからこそ『日本書紀』にはわざわざ群臣の要請によって即位が実現したと理由づけがなされているのである(『日本書紀』の性格については後にふれる)。

このように成立した体制のもとで、仏教と儒教に基づいた天皇を中心とする(十七条の憲法)中央集権化への施策が実行に移される。だからこそ、太子は自ら立てた推古を退位させてまで即位する途を選ばなかったのではないか。そのかわりに、太子・馬子が力を注いだのが史書の編纂であった。その目的はまさに、武力によって掌握した自らの権力(及び掌握過程)の正統性(正当性)を主張し後世に残すために必要な施策であった。史書は『天皇記』『国記』として完成をみるが、太子の上宮王家と蘇我本家の滅亡と共に失われてしまう。

●5. 「乙巳の変」と「改新」

勤務する高校で使用している山川出版社の教科書『詳説日本史』では、中大兄皇子らが蘇我蝦夷・入鹿父子を滅ぼした政変を括弧付きで「(乙巳の変)」と記述している。そしてできた新政権の孝徳天皇時代の諸改革が大化改新といわれる、と結んでいる。中大兄の目的が「王族中心の中央集権を目ざし」たものであったとしても、これは武力による権力の奪取にほかならず、これを「クーデター」と表記する高校教科書もある。多くの生徒が「変」と聞いてまず連想するのは「本能寺の変」であり、この事件の背後にある周到な「^{はかりごと}謀」の存在に気づく。そして生徒は自ら「なぜ」という問いを発し始める。中大兄が事件を起こしたのは母の皇極天皇の時である。まず女帝に注目が集まる。そして生徒たちは中大兄の父母も天皇であることを系図で確認する。

そもそも中大兄は皇族として最も天皇(大王)の位に近いところにいたのではないか。蘇我氏が権力をふるっていた、とするならば中大兄の両親の即位も蘇我氏の諒解無しには実現しなかったはずである。それも蘇我氏は最も近しく血統・能力に優れた山背大兄王をさしおいて中大兄の父である舒明天皇を即位させた。蘇我・舒明政権と山背大兄との間には対立があり、それは山背大兄一族を滅ぼさざるを得ないほど大きかったことになる。私見ではあるが、その対立は外交政策の根本に関わる問題ではなかったか。

太子・馬子によって始められた中国王朝中心の外交政策(これはそれまでの百済重視策を離れ朝鮮半島の戦乱状況から距離をおくもの)の継続を山背大兄が唱え、国の存亡がかかった百済の猛烈な巻き返し工作に応えたのが蘇我・舒明政権(百済宮の造営や百済大寺の建立など)で

はなかったか。蘇我氏からすれば、舒明の後継は当然路線を継承し、山背大兄以上の地位にある人物でなければならず、舒明皇后の皇極女帝即位しかなかったのである。そして山背大兄殺害後、蘇我氏は血筋にあたる舒明の子、古人大兄の即位が視野にあったことであろう。このような状況の中で起こされたのが乙巳の変である。そこには政策の対立などはなく、舒明・皇極政権からの蘇我氏排除がその真の目的であった。しかし、中大兄の蘇我氏排除は権力掌握の正統性にやはり疑問が投げかけられ、中大兄は即位することができない。そこで叔父の孝徳が即位して中大兄は初めての皇太子となる。

この過程の聖徳太子との類似に生徒はすぐに気づき指摘してくる。その後「改新の詔」に言及し、「公地公民」「班田収授」にふれる。しかし、その実施に不可欠な戸籍作成が670年になって初めて作成されたことを指摘し、それまで何をしてきたのか(内政に手をつけていないというヒントを出す)、と生徒に問えば「白村江の戦い」は簡単に出てくる。「百済滅亡」時の斉明天皇を系図で探させることによって、叔父の孝徳天皇の死を説明し、中大兄による古人大兄、蘇我石川麻呂、そして孝徳の子の有間皇子の排除に言及する。ここまでで生徒は中大兄がさらに皇位から遠くなったことを理解し、母の皇極天皇を再び斉明天皇として即位させる、^{ちようそ}重祚という、さらに前例の無い手段を取らざるを得なかった状況を把握する。

百済救援軍派遣の最中の斉明天皇の死により、救援のタイミングを逃したことが「白村江の戦い」大敗につながり、その後は国内防衛体制の強化や遷都に迫られた。対外脅威の前に強力なリーダーが求められ、高句麗滅亡後に唐と新羅が半島で戦争を開始したことで中大兄は天

智天皇として即位することが可能となった。しかし、即位した中大兄に残された時間はなく、中央集権化のための方策は「近江令」と最初の完備した戸籍である「庚午年籍」しか残せなかった。

●6. 大海人皇子の即位

「壬申の乱」について、教育出版の教科書 p.37では、「この戦いに勝って即位した天武天皇は、天皇の権威を高め、反対する豪族らをおさえて、政治の改革を一気に進めました」とある。政治の改革の内容としては、富本銭、藤原京、天皇号と日本の国号が挙げられている。教科書では次に「大宝律令」の記述が続くが、古代最大の内乱を制して(起こして)即位した天武天皇の具体的な施策をみなければ、乱の意義や系図にあるその後の3代の女帝にまつわる「なぜ」に答えることはできない。

672年の乱後、大海人皇子は飛鳥に遷都し、翌年、新都で天武天皇として即位する。乱は、天智天皇を継いだ子の大友皇子の治める近江朝廷への、大海人皇子の攻撃と勝利による皇位の篡奪であった。これまでの太子や中大兄の例からすれば、このような行為は正統性を認められず、即位できなかったはずである。

ではなぜ、大海人皇子はすぐに即位できたのか。これが、「類似と差異」の考察である。高校生にこれを質しても、すぐには明確に答えられない。太子や中大兄は対立勢力を倒しても、第三者の立場に多くの豪族が存在し、その権力掌握の過程に非難の目を向けていた。高校生には教科書にある「乱の結果、近江朝廷側についた有力中央豪族が没落」した、という記述の意味が実はよく捉えられないのである。乱の結果、攻められた朝廷側の豪族のほとんどは大友皇子とともに滅んだのであり、大海人皇子に敵対し

たり反感を示したりした豪族は一掃され、第三者的立場の豪族は残らなかったのである。

であるから、大海人は誰憚ることなく新都で即位できたのである。そして令の制定と同時に歴史書の編纂が命じられ、これが後に『古事記』『日本書紀』として完成をみる。中央集権化の諸事業は天武天皇の死後も皇后の持統女帝が即位して続けられた。これは天武・持統の孫である文武が即位するまでに、いわゆる律令体制の完成をさせようとするもので、文武が15才になると持統は譲位して最初の太上天皇となって文武天皇を後見した。そして、701年の大宝律令の完成を見届けたかのように、翌年持統は死去した。歴史書の編纂にも持統は積極的に関与したと思われ、夫の天武の壬申の乱の正当化はもちろん、天武・持統朝で実現した中央集権化の諸施策があたかも父である中大兄・天智天皇の代に始まったかのように修飾し、歴史書を編纂することのできなかった中大兄の乙巳の変もここで正当化されたのである。このようにして完成した『日本書紀』は、その編纂に力を注いだ持統天皇の代までの構成となっているのである。

●7. おわりに

聖徳太子から持統・文武までを一つの政治的意識・目的に基づく政治体制の構築過程と捉え、「女帝」を一つの着眼点として、「継続と変化」「原因と結果」「類似と差異」を明らかにして理解する授業展開を示してみた。もちろん、論の足りない粗雑な結びつけもあると思うが、教科書にある系図の「女帝」の利用価値は高く、次の奈良時代への導入にも活用できると思う。

批判的思考力を身に付ける授業づくりの視点 ～「選挙が違憲だと何が問題なのか？」の実践を通して～

内藤 圭太

●ないとう けいた／埼玉県戸田市立戸田中学校教諭

● 1. はじめに

教員として、初めて授業を担当した生徒たち(2013年3月卒)は、今年18・19歳になった。彼らとは、選挙の低投票率の改善方法や、選挙権年齢の引き下げの是非の討論、本稿で扱う選挙制度の問題点を探究する授業を展開してきた。18歳選挙権についての議論では、「15歳でも有権者になるだけの知識を持っている人はいるのだから、引き下げても構わない。」「今から3年後に、自分が正しい判断力を持って投票できるとは思えないから、引き下げは必要ない。」という意見が出た。このような討論をした彼らも結果的に、全員が有権者となったのである。

当時から筆者は、中学卒業の段階で、彼らに選挙で投票できるだけの資質を身に付けさせたいという思いが強かった。なぜなら、選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられれば、彼らが中学校を卒業して高等学校に進学した場合であっても、初めての投票の時点で、「現代社会」や「政治・経済」で選挙について学習していない可能性があることを危惧していたからである。もちろん、選挙制度については、高校教科書でしか扱われていない内容もあるが、中学校社会科が担う役割を常に考えようとしてきた。そこで、本稿では、批判的思考力を身に付けさせることを中心とした主権者育成の授業実践事例を紹介する。

● 2. 社会科教育が担う主権者育成

中学校社会科では、どのような主権者教育

が求められているのであろうか。生徒たちは、学校教育や、これまでの生活経験から、民主的な考え方をある程度理解していると考えられる。例えば、ものごとを決める時に、多数決をしてよい場面、ふさわしくない場面を区別し、多数決で決まった後も少数意見を尊重するという考え方など、民主的な考え方の基礎を身に付ける機会は学校生活の中にもある。しかし、生徒たちが経験を積み重ねるだけでは、現代の民主政治を絶対視することになりかねない。また、教科書に書かれている制度を“覚えなければならないもの”と認識してしまえば、よりよい社会のために、現状の制度を批判的に見たり、新たな制度を考えたりする機会はほとんどないと言ってよい。

このような現状をふまえると、批判的思考力を高めることが、社会科教育が担う主権者育成の領域と言えよう。そして、「民主主義を問い直す」視点から授業づくりを行い、生徒たちによりよい社会について考えさせたい。

そこで、以下、筆者がこれまでに実践した授業に基づいて、中学校社会科における主権者育成について述べる。

● 3. 実践事例

本実践は、政治領域全体の、単元を貫く発問「選挙が違憲だと何が問題なのか？」を探究するものである。単元計画の概略は以下の通りである。

第1次 選挙制度「どうしたら総理大臣になれるのか？」

第2次 国の政治のしくみ「議院内閣制と大統領制はどちらがよい？」

第3次 裁判所のしくみ「なぜ、裁判制度が始まったのか？」

まとめ 「選挙が違憲だと何が問題なのか？」

単元全体の導入部分にあたる1時間目では、「一票の格差」の問題を取り上げる。どのような問題なのかを資料や新聞記事などで調べ、選挙区によって、選出する議員一人あたりの有権者数に違いがある、つまり一票の持つ価値が異なってしまう問題である、という知識を習得する。そして、「選挙が違憲だと何が問題なのか？」という問いに対し、前単元で人権保障を扱っていることもあり、多くの生徒は「平等権の侵害」であるという結論を出す。ここで自分の考えを持ったうえで、選挙制度、国会、内閣、裁判所の学習に入る。

ここからは、単元のまとめとして、改めて「選挙が違憲だと何が問題なのか？」を考える場面を紹介したい。授業展開(発問と答え)は以下の通りである。

- ・「選挙は国民の行動であるが、三権(立法・行政・司法)の中の何と関わっているか？」
—国会議員を選ぶのだから立法権である。
- ・「国会議員を選ぶ過程に、憲法違反があったとしたらどうなるか？」
—選ばれた国会議員が違憲状態で選ばれたことになってしまう。
- ・「この影響は、立法だけだろうか？」
—国会は、内閣総理大臣を指名するので、指名された国会議員も違憲状態で選ばれたことになってしまう。
- 内閣は、最高裁判所長官を指名するので、そこにも問題が拡大する。裁判所は違憲審査ができるが、国会や内閣が機能しな

くなることも問題である。国民は、国民審査で最高裁判所の裁判官を審査する権利を持っているが、それが十分に機能しているかわからないことも問題である。

このような展開によって、選挙制度の問題が三権のすべてに関わる問題に発展することを探究させた。

まとめとして、「現在の選挙制度は違憲状態という判決が示されている。あなたたちが、改めるとしたらどこを改めればよいか？」という問いに、4人グループによる話し合いで解決策を提案させた。以下、生徒が出した主な意見である。

- ・裁判所が内閣や国会に対する違憲審査権を有効適切に行使するようにすべきである。
- ・国会で、きちんとした選挙制度に関する法律を制定すべきである。
- ・内閣は、議院内閣制で責任があるのだから、法案提出を積極的に行うべきである。
- ・国民が政治に関心を持って、問題を解決するように動くことも大切だと思う。

● 4. おわりに

「一票の格差」は、ニュースや新聞で調べるだけでは、選挙制度だけに関わる問題として認識される。しかし、本稿で強調した批判的な思考に基づいて考察することにより、選挙制度だけの問題ではなく、三権すべてに関わる問題であり、さらには現代の民主政治を揺るがす問題であるという認識に変容させることができる。

既存の選挙制度や、一票の格差に関する報道のあり方を問題視するという意味での批判的思考力にとどまらず、生徒自らが、よりよい社会を築くために考えていけるようにすることが重要であることは言うまでもない。



第14回

まもなく締め切り!!

地球となかよし メッセージ

作品募集 (2016年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、
写真 (またはイラスト) にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!

応募資格	小学生・中学生 (数名のグループ単位での応募も可)
応募期間	2016年7月1日～9月30日 詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。
作品 テーマ	①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会
◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

教育出版

「地球となかよし」事務局 TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回
入選作品



受け継がれる伝統と心

私は中学校で、かるた部に所属しています。私がかかるたを始めたのは小学校四年生の頃です。私はこのときから、かるたが好きです。理由は、男女も年齢も関係なく、平等な立場で試合に立ち向かえるからです。また、いろいろな年代の方と話したり、仲良くなったりできるところも、試合をしている全員が、古くからある百人一首を一生懸命とっている姿も私のお気に入りです。百人一首が現在まで残っているのは、日本人が百人一首を大切にしてきたからだ、私は思います。なので、私も大好きな百人一首をこれから先も残していけるように、かるたを続けていきたいです。

【表紙写真】スペイン南部セビリアのマリア・ルイス公園内にあるスペイン広場。半円形を描く建物は、1929年のイベロ・アメリカ博覧会の際にスペイン館として建てられたもの(上写真)。14世紀にアルハンブラ宮殿の北東に整備された別荘ヘネラリフェ。イスラム建築によるアセキアの中庭は、噴水や花壇の花々で彩られている(下写真)。
[2015年 スペイン]

中学社会通信 Socio express (2016年 秋号)

2016年8月31日 発行

編集: 教育出版株式会社編集局
印刷: 大日本印刷株式会社

発行: 教育出版株式会社 代表者: 小林一光
発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (内容について)
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp> 03-3238-6901 (配送について)



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

北海道支社	〒060-0003 札幌市中央区北3条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
函館営業所	〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング 3F TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
東北支社	〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
中部支社	〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
関西支社	〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
中国支社	〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
四国支社	〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
九州支社	〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡 E室 TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
沖縄営業所	〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411